

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	佐賀関町立神崎中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	2	2	1	6	15
生徒数	34	44	52	1	131	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の向上を目指した指導法の工夫
～ 個を生かす学習形態や学習過程の工夫・改善を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年：国語、社会、理科、英語（協同学習）
互いの関わりの中で伸びていく可能性のある教科であるため。
調べ学習や発表など生徒同士の関わりが深い教科であるため。
実験などで互いの関わりや深め合いが多い教科であるため。

全学年：数学（補充・発展学習）
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

全学年：音楽、美術、技術、体育（協同学習）
作品作成、合唱づくり、競技等で互いの支え合い、協力が欠かせない教科であるため
授業研究は実施せず

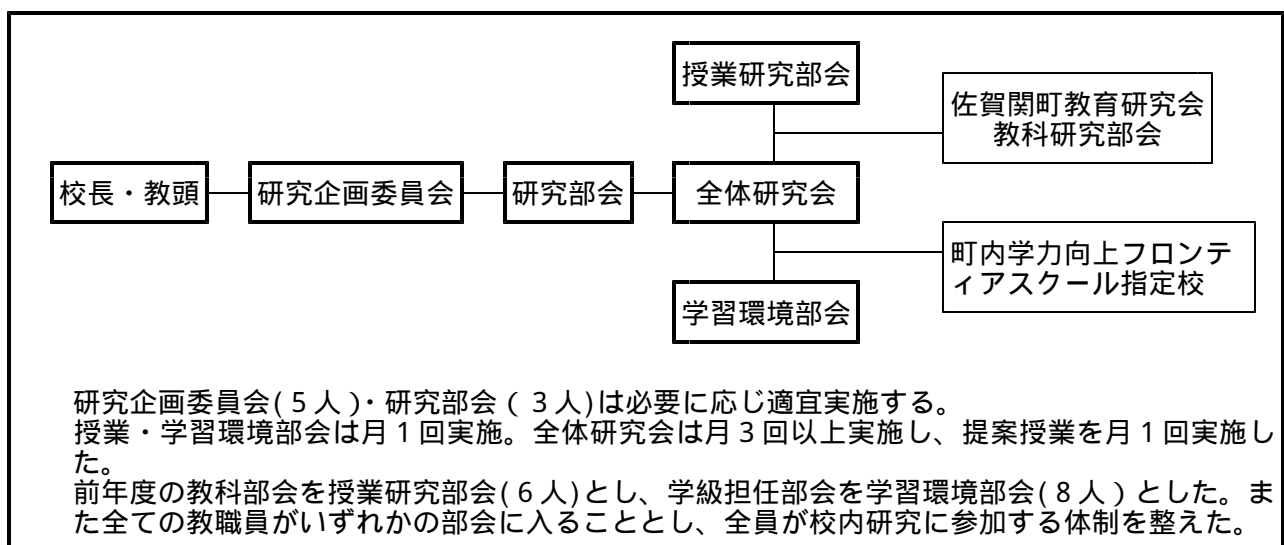
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	研究主題	基礎学力の定着を目指した指導法の工夫 ～ 個に応じた学習指導の充実を目指して～
	研究仮説	生徒の主体的な学習活動ができる学習形態や個に応じた指導法を工夫すれば学習に対する意欲が育ち基礎学力が身につくであろう。
	研究の内容・方法	生徒の実態を把握し、各教科の基礎学力を明確にし、評価の工夫を考え、それに基づいた指導法や主体的な学習形態の工夫・改善などの研究に取り組んでいく。 (1) 学習のかまえアンケート（2回実施） (2) 学力検査と分析（6月CRT実施） (3) 教科ごとの意識調査（必要に応じて） (4) 教科の基礎・基本の捉え（町教育研究会と連携して） (5) 教科ごとの評価規準・基準の作成 (6) 学習形態・学習過程の工夫 (7) 個に応じた指導法の工夫（T-T, グループ学習） (8) チャレンジタイム、質問教室の取り組み（補充的な学習） (9) 学習習慣定着のための取り組み（家庭学習記録表）

平成 15 年度	<p>研究主題 確かな学力の向上を目指した指導法の工夫 ～個を生かす学習形態や学習過程の工夫・改善を通して～</p> <p>研究仮説 主体的な学習が期待できる学習形態を工夫し、協同的な学習や補充的・発展的な学習を取り入れれば、学習に対する意欲が育ち、確かな学力が身につくであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p>
	<p>1. 個を生かす授業の創造 2. 目標・指導・評価の一体化 3. 学習指導体制の充実</p> <p>(1) 指導法、学習形態の工夫 を目指した授業の創造 (1) 学習規律の確立 T - Tによる指導 (1) 評価規準の作成 (2) 教室環境づくり 協同学習 (2) 評価表の工夫・改善 (3) チャレンジタイム 少人数学習（補充・発展） (3) 学習アンケートの実施 (4) 質問教室 (2) 教材開発 (4) 評価補助簿の作成 (5) 教育相談 教材・教具の工夫 (5) 学力検査、分析（NRT） (6) 家庭への啓発活動 副教材の工夫 (6) 各教科学力向上プランの作成</p>

平成 16 年度	<p>研究主題 確かな学力の向上を目指した指導法の工夫 ～個を生かす学習形態や学習過程の工夫・改善を通して～</p> <p>研究仮説 主体的な学習が期待できる学習形態を工夫し、協同的な学習や補充的・発展的な学習を取り入れれば、学習に対する意欲が育ち、確かな学力が身につくであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p>
	<p>1. 個を生かす授業の創造 2. 目標・指導・評価の一体化 3. 学習指導体制の充実</p> <p>(1) 指導法、学習形態の工夫 を目指した授業の創造 (1) 学習規律の確立 T - Tによる指導 (1) 評価規準の作成 (2) 教室環境づくり 協同学習 (2) 評価表の工夫・改善 (3) チャレンジタイム 少人数学習（補充・発展） (3) 学習アンケートの実施 (4) 質問教室 (2) 教材開発 (4) 評価補助簿の作成 (5) 教育相談 教材・教具の工夫 (5) 学力検査、分析（NRT） (6) 家庭への啓発活動 副教材の工夫 (6) 各教科学力向上プランの作成</p>

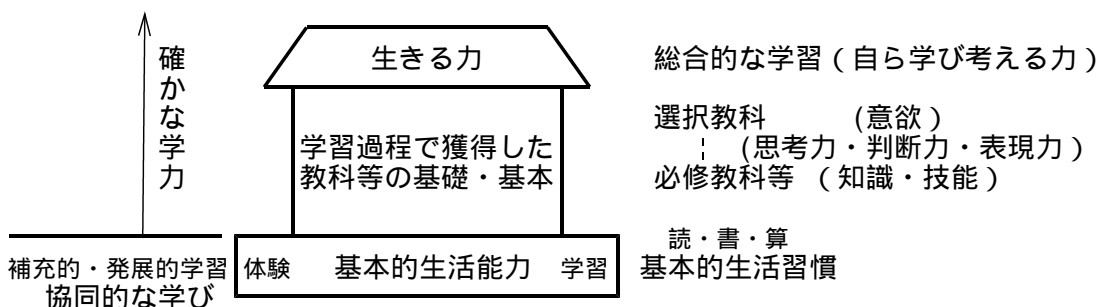
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 理論研究において「確かな学力の向上」の意義を共通理解できた。



(2) 授業研究により「個を生かす学習形態」や「協同的な学び」のあり方を共通理解できた。

6月【1年数学】

グランドゴルフという身近な題材を通して、正・負の数の概念を学習することができた。効果的なT-Tにより、個別支援が必要な生徒に十分な説明・支援がなされた。正・負の数に対する関心が高まり、次の活動への意欲化が授業を通して図られた。

7月【2年英語】

友人と協力してスキット(小話)を作成し、自信を持って堂々と英語で発表できた。ALTとのT-Tにより、生徒一人ひとりに細かな評価を与えることができた。学習活動に真剣に取り組めば、他のグループから正当に評価され、賞賛されることを学んだ。

9月【2年数学】

線香の燃える時間を利用した課題の設定が生徒の学習意欲を喚起していた。T-Tでの教師の役割分担(説明・個別支援・位置等)が明確になった。自分の考えを持つと同時に、他の人の考えを尊重する雰囲気を作られた。

10月【1年国語】

環境問題を考える協同学習において個人やグループが責任を持って調べ学習をした。グループ学習(3~4人)が協同的になされ、互いに支え合う姿勢や発言が見られた。意欲面で気になる生徒もグループでの学習に参加し、課題解決に努力した。

12月【3年社会】

地球の抱える諸問題を全員で共通理解でき、環境問題に関心を深めた。共感的で明るい雰囲気の中で発表活動ができ、自信を持って調べたことを伝えた。資料のまとめ方や発表の仕方を互いに学ぶことができた。

1月【3年理科】

自ら風力発電をして得た電力で自動車を動かすことに生徒は深い関心を示した。発電に必要なプロペラの作成段階で、支え合い協力し合う場面が多く見られた。エネルギーや環境保全の問題に対して、有効利用していこうとする意欲が見られた。

(3) 教研式学力検査(NRT)で向上が見られた。

2年生のNRTの偏差値で「確かな学力」の向上が確認された。

7月10日受験(学校独自)		10月22日受験(全県一斉検査)	
国語	50.8 (学年44人平均)	国語	53.8 (学年44人平均)
数学	50.7 (学年44人平均)	数学	52.8 (学年44人平均)
英語	51.4 (学年44人平均)	英語	57.1 (学年44人平均)

5段階評定で1の生徒が各教科に一人もいなかったのは研究実践の成果である。

2. 今後の課題

前記理論研究や授業研究の実践を図った上で下記の課題が明らかになった。

- (1) 生徒の内面を探る生徒実態調査アンケートのあり方の研究
- (2) 「協同学習」における指導方法ならびに教育効果・確かな学力向上の研究
- (3) 「少人数指導」及び「補充・発展学習」における教育効果・確かな学力向上の研究
- (4) チャレンジタイムにおける補充的・発展的学習のあり方をさぐる研究
- (5) 授業と連動した「ワークシート」や「家庭学習課題」のあり方をさぐる研究
- (6) 年間を通して継続可能な「目標・指導に準拠した評価補助簿」のあり方をさぐる研究
- (7) 各教科(必修・選択)・総合的な学習・道徳等の「指導計画」のあり方についての研究

学力把握のための学校としての取組

5月	生徒実態アンケート	(全学年): 教科学習に関する興味・関心、家庭学習の実態把握
6月	中間テスト 実力テスト	(全学年): 学習の到達度をはかる (3年): 1・2年の学習内容の定着度をはかる
7月	NRT 期末テスト 実力テスト	(2・3年): 国・数・英の前学年の確かな学力をはかる (全学年): 1学期学習内容の到達度をはかる (3年): 1・2年の学習内容の定着度をはかる
8月	実力テスト	(3年): 1・2年と3年1学期の学習内容の定着度をはかる
10月	中間テスト 実力テスト	(全学年): 2学期上半期の学習内容の到達度をはかる (3年): 1・2年と3年2学期の学習内容の定着度をはかる
11月	実力テスト	(3年): 1・2年と3年2学期の学習内容の定着度をはかる
12月	期末テスト 実力テスト	(全学年): 2学期の学習内容の到達度をはかる (3年): 1・2年と3年2学期の学習内容の定着度をはかる
2月	NRT 実力テスト	(全学年): 現学年の確かな学力をはかる(2年のみ理・社) (3年): 3カ年の学習内容の定着度をはかる
3月	生徒実態アンケート 学年末テスト	(全学年): 教科学習に関する興味・関心、家庭学習の実態把握 (1・2年): 現学年のすべての学習内容の到達度をはかる

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

実践報告、研究の交流	
7月 1日(水)	大分県中学校校長研究大会にて実践報告(大分県各中学校の各学校長対象)
7月 23日(水)	学力向上フロンティア郡内3校研究主任合同研(指導主事・研究主任) 実践報告・情報交換
7月 25日(金)	佐賀関町内教頭会にて校内研究の紹介(佐賀関町内教頭対象)
7月 28日(月)	佐賀関町内校長会・地教委合同研 実践報告(教育委員・北郡小中校長対象)
8月 4日(月)	佐賀関町教育研究会小中学校研究主任・研究部長合同研実践報告 (研究主任・各教科研究部長対象)
8月 18日(月)	大分教育事務所管内学校間連携推進協議会実践報告(管理職対象)
HP作成 平成16年3月末までに2年次までの作成完了予定	
研究会予定 平成16年6月29日(火)13:30~3年次公開研究発表会予定(自校にて) (1)全体会 (2)国・社・数・理・英の公開授業 (3)教科別分科会	

- 【新規校・継続校】 15年度から新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7~12学級 13~18学級 19~24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 小人数指導 T-Tによる指導 1部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科 英語 音・技家・体・美
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無